

映画「空想の森」

土と暮らす

26日公開

北海道の中央にある新得町で農業を営む四十代女性らの暮らしを撮ったドキュメンタリー映画「空想の森」(田代陽子監督) Ⅱ写真Ⅱが完成し、二十六日から劇場公開される。

映画の主人公の一人、山田聡美さんは、同町で約三十年続く「共働学舎新得農場」で働いて十三年。生き方に迷って大阪から移り住み、結婚して長女(二)も授かった。

チーズ作りで世界的に

評価されるこの農場は、

障害者も共に働くコミュニティーだ。効率より、自然や人のペースに合わせて作業は進められる。

映画は土にまみれる手作業を追い、独立を考える山田さんにも寄り添う。

一九七〇年代に入植し、機械に頼らない独自の農業を続ける農家ももう一人の主人公。収穫した野菜が並ぶ夕食の食卓は温かく印象的だ。

「時間をかける暮らしが、なんて豊かなのかと思った」と田代監督(四〇)。都会育ちの田代さんは、この町で野菜やミルクのおいしさを初めて知った。それを作る人に関心を持ち、七年かけて初作

品を完成させた。「競争社会の世の中。ほっとする別の世界を見てほしい」

上映はポレポレ東中野で。自主上映の問い合わせは上映委員会Ⅱ電090・9084・2058。

